



本
願
力

【小さき声の力ノン上映&鎌仲ひとみ監督トーク会】

三寒四温とは春先の頃であると思えるが、今年の春からの気候は日替わりの冬と夏、桜が咲いても又逆戻り、こんな異常気象が常態化して、私共を落ち着けなくしている。ともかく風薰る季節がまちどうしい。

私たちの社会生活環境の動向に目を向けてみれば「萎縮と混沌」この言葉が貧困な想像力から浮かんできた。

萎縮は物理的には単に縮んだりしなびたりして小さくなることだが、精神的には恐れかしこりとして、気が小さくなることまで気持ちは小さくなることだらしくて、今の日本人の多くが陥っている病を表すのに相応しいとの指摘もあって妙に納得するのである。萎縮する理由としては、深々とした自信喪失で現道筋を頼りに今まで歩んできたがどういう時代かが判らず、かといって、かといつて、ど

【発行】真宗大谷派 本願寺横浜別院
〒234-0051
横浜市港南区日野一ー十一八
FAXTEL
(〇四五) 841-13428
(http://www.yokohama-oootani.com)

雜感四
輪番 坂田 智亮

う進むのか皆目わからないまま茫然自失と言った具合である。小生、突然横浜に足を踏みいれて丸三年、この話がどうも今の私にピタツと嵌まるのである。恥ずかしいことだが、ドキドキワクワク感がもてず、さざまな新しい出会いの準備とその瞬間も遠く、また、この地における宗教的生活感覚が実感できない苛立ちの中で、率直にこの身が馴染めていないことなどの思いがこのところ過（よぎ）つている。

また一方、最近よくカオス（混沌・無秩序）と言う表現を耳にすることがある。入り混じてしまつて区別がつかずはつきりしないという意味で使われている。

この時代社会には、生活を支える経済を始めとする知恵を駆使したあらゆる現象に格差が顕著に出現してきている。価値観は多様化して、便利さを追求する科学技術の進歩、AI等の登場、これも利用頻度と恩恵の有無によって随分と落差が生じている。これらはあくまで人間のあくなき興味・関心事の延長と幸福追求の手段の結果であつて、それ自身が人生の目的達成ではあるまい。科学と人間の領域に境界もなく、独りの人間は、人生の意義と着地点を喪失して、ただあてもなく彷徨い、生きるものへの感覺を見失ってしまう。まさにあらゆるもの

が「混沌」とした時代である。

過日、世界遺産であるノートルダム寺院の火災という事実に世界中の人々は落胆し悲しみに包まれた。いち早く多額の寄付を申し出た富ある人、また、悲しむことを通してのちの深渊へ誘われた人たち、民族

宗教の違いはあるにせよ、この現実に立て人間の悲しみを共有したことは間違いない。人は存在の奥に誰しも人間であることへの祈り「ねがい」が胎動していて、その発露の瞬間を待ち続けているのかもしない。

着実に広がる萎縮と混沌を誰しもが超えて、人と人が出逢い、そして、繋がる社会の実現を願っているはずである。自らも人生を振り返り、また一步、明なる大地を希求し続けて行きたく思う。

今こそ、人間回復の道が俟たれ要請されているように思えてならない昨今、別院・教化センターも、その歩みを紡ぎ続ける機能を保持していかねばならない。

『小さき声のカノン』上映& 鎌仲監督トーク会（三月十日）



今年で福島原発事故から七年が経ちました。

放射能汚染によって、帰還困難区域が設定され、今も故郷に帰れず、避難生活をされている方がたくさんおられます。その一方で、避難指示解除準備区域から避難指示の解除がなされた区域が徐々に行なわれています。しかしながら、被ばくした方々の悲しみは癒されておらず、

→ 鎌仲ひとみ監督



→ ナターシャ・グジーさん

始まって一秒も経たなかつたかもしれない。「きれいな音色」と直感的に思い感動するまでに。

四月十四日（日）夕刻の別院本堂に、ウクライナの歌姫とも言われる、歌手ナタ

ナターシャ・グジーコンサート

原子力事故において、拡散された放射能の危機感はしだいに風化しつつあります。今回、原発問題を考え直すきっかけとして、『小さき声のカノン』を上映することにしました。「保養」をテーマとして、日本とベラルーシでの活動を収めたドキュメンタリー映画でした。「保養」とは、子どもたちが健康を取り戻すための合宿のようなもので、映画では自然豊かな北海道で子ども達が集団生活を行ない、放射性物質を減らしていくような取り組みがなされていました。上映後、鎌仲監督のお話から、たくさん質問がなされ、丁寧に受け答えいただきました。（文責家本）

シヤ・グジーさんが立った。すらりと伸びた長身。そのまま水晶の歌声と形容される、美しく透明な声が発せられ、私たち聴衆の耳に届く。そして手で奏するのは、バンドウーラというウクライナの民族楽器である。ハキロもの重量、六十三本もの弦からなる。この楽器の音色のなんときれいなことか。日本の曲も織り交ぜて、あつという間の一時間。最後に会場一体となつて、唱歌「故郷（ふるさと）」を歌う。故郷に戻れぬ人とともに歌う「故郷」。そう。彼女は六歳のときに、チエルノブイリ原発の事故に遭遇。わずか三・五キロの近距離で被曝する。街は土に埋められ、地図からも消されたという。

彼女の美声と、背景にある悲しみ。当日おいでになれなかつた方は是非何かの機会に。必聴である。

（文責 企画広報部 伊藤大信）

別院役員就任のお知らせ

次のとおり新しく役員に就任されました。

二〇一九年四月一日付

【責任役員】

渡辺 賢（横浜組光源寺住職）

西谷内力世（別院門徒）

【院議会議員】

本多康興（横浜組蓮光寺住職）
岩田謙子（別院門徒）

【監事】

本多 和（川崎組稱名寺住職）

以上

【神奈川四ヶ組（横浜・川崎・三浦・湘南）のうごき】

三浦組 二〇一九年度寺子屋

講師 伊東恵深師（同朋大学准教授）



→ 伊東恵深 先生

（文責家本）



→ 研修会の様子

（文責家本）

三浦組では今年度第二回目の「寺子屋」が三月一日に開催されました。会場は横須賀市西来寺で第一回と同じように五十名を超える参加者で本堂はいっぱいとなりました。講師は、伊東恵深師で、自己紹介をされながら、「みんなと同じは○○、みんなと違うと□□。この○○と□□に入る言葉はなんでしょうか?」というクイズの様な形から始まりました。○○＝不満、□□＝不安が入ります。「人はどうなりや満足?」と投げかけられ、参加者から「なるほどなあと頷かされていました。「聴」と「聞」の違いについて、「聴は聞く。聞はきこえる。例えるなら、聴診器、聴講生は聴。香道では、嗅ぐと言わず、聞くという。つまり聴とは、聞く者が自ら聞く者に自ずと聞こえてくる様を表してゐる。」と教えていました。「聴聞」という言葉には、佛法を両方から「聞く」深い意味があります。

三浦組では今年度第二回目の「寺子屋」が三月一日に開催されました。会場は横須賀市西来寺で第一回と同じように五十名を超える参加者で本堂はいっぱいとなりました。講師は、伊東恵深師で、自己紹介をされながら、「みんなと同じは○○、みんなと違うと□□。この○○と□□に入る言葉はなんでしょうか?」というクイズの様な形から始まりました。○○＝不満、□□＝不安が入ります。「人はどうなりや満足?」と投げかけられ、参加者から「なるほどなあと頷かされていました。「聴」と「聞」の違いについて、「聴は聞く。聞はきこえる。例えるなら、聴診器、聴講生は聴。香道では、嗅ぐと言わず、聞くという。つまり聴とは、聞く者が自ら聞く者に自ずと聞こえてくる様を表してゐる。」と教えていました。「聴聞」という言葉には、佛法を両方から「聞く」深い意味があります。

横浜組 門徒研修会（四月十一日）

講師 武田定光師（東京六組因遠寺住職）

〔横浜組〕 〔横浜組声明儀式研修会〕

〔横浜組〕

〔横浜組声明儀式研修会〕

今年度第二回目の横浜組門徒研修会の講師は、武田定光師でした。教化テーマ「真宗の救いとは「一人一世界」を得る」について、「真宗の救いとは無意味からの解放である。人間は苦しみの意味が分かれば、

それに耐えることができる。なぜ死ぬのに生きるのかという問いに対する答えを得るのが救いである。欲望の達成が救いとはならない。欲望の充実は一時しのぎだからです。親鸞は高僧和讃の中で、本願力にあいぬればむなしくすぐるひとぞなき」とおっしゃっている。人生において、なぜ生きるのかという意味を見い出す。まさにこの点である。生まれた命には、一つも自己責任はないのである。

「一人一世界」とは、この世に私一人しか生きていないと

- 【日時】六月六日（木）午前十時半
【講師】山田慎也 氏
（総合研究大学院大学准教授）
【会場】本願寺横浜別院

〔横浜組育成員研修会〕

〔横浜組育成員研修会〕

- 【日時】五月二十日（月）午後一時半
【講師】管生考純 師（京都教区光明寺住職）
【会場】本願寺横浜別院

〔横浜組育成員研修会〕

〔横浜組育成員研修会〕

〔神奈川四ヶ組行事予定表〕

- 〔第三十回〕
【日時】五月十七日（金）午前十時四十五分～午後四時
【講師】三木彰円 師（大谷大学教授）
【学習聖典】『一念多念文意』
【参加費】千円 ※当日受付
【会場】本願寺横浜別院

